



まるお

<道しるべ>

ありがとうと伝えたくて あなた
を見つめるけど、つながれた右手
は、誰よりも優しく、ほら、この
声を受け止めてる

いきものがかり
2010年『ありがとう』の歌詞より

<学校教育目標>

自ら学び 自他を尊重し
心豊かでたくましい生徒の育成

<重点目標(スローガン)>

感謝+優しさ=笑顔と幸せへの道

発行：長崎市立丸尾中学校

文責：校長 川口 猛

令和8年6月29日(月) NO10

7月(文月)本来、七夕のように夢ある月であってほしい……

7月は、文月と呼び、織姫と彦星が年に一度出会い互いの愛を確認する重要な日があります。ご存知の「七夕」ですね。互いに文を交わすという昔ながらの愛情表現なのでしょうね。現代のようにLineで、Instagramで愛情を表現するのではないのは確かです。恋文をしたため、その恋文を交換するから「文月」というのでしょうか？私も詳細はわからないので、調べてみようと思います。

さて、6月29日から教育週間に入り、授業参観を保護者・地域に公開したり、メディアに係る重要な講話を聴いたり、心の日で人権に係る大事なお話を読んだりします。生徒総会も行われ、自分たちの生活を自分たちの手で見つめなおし、改善する話し合いを行います。私も教育週間の初日に命に係る校長講話を行います。(行いました。)校長講話では、「命の連続性」について触れました。その講話で使用したスライドを示していきたいと思います。

教育週間を迎えるにあたって

長崎県に住んでいる私たちにとって、忘れてはならない大きな、そして悲しい出来事(事件)があった。

皆さんが生まれる前のことですが……

長崎市の中学生が幼児を誘拐し、殺害したという事件(2003年)

佐世保市の小学校の教室で、刃物で友人を殺害したという事件(2004年)

佐世保市の高校生が同級生を殺害した事件(2014年)

大事な『命』を奪うという大変な事件だった

『命』の大切さを考えよう。学ぼう。
=教育週間

6月末から7月かけて、長崎っ子の心を見つめる教育週間がはじまって、20年以上経過します。生徒の皆さんも、保護者の皆さんも、この教育週間に伴う様々な取について経験も含め知っていることと思います。

講話では、まず、この教育週間がなぜあるのかについて話をしました。2003年、2004年そして2014年と、子どもが子どもの命を奪うという心をえぐられる悲しい出来事があり、大事な命が奪われるというこの重大な事件に、命の大切さを見直そう、考えよう、学ぼうということで、この教育週間が始まり、そして受け継がれているということ話をしました。教育週間を通して、私たちも新たな気持ちで生命尊重を学ぼうと伝えました。

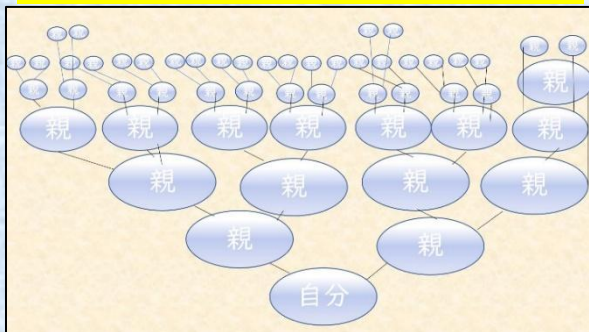
当時の新聞記事ですが、掲載いたしません。

上記の写真は、その時に報道された新聞記事ですが、「まさか、長崎県で……」と思いました。当然一教員として働いていましたから、「信じられない……」という気持ちがありました。佐世保市の事件の時には、県中総体の役員をおそらくしていたと思うのですが、「佐世保で何かあったらしいよ……」と先生方の間でざわめいたものです。スマートフォンなんか持っていない時代ですので、情報は自宅に帰ってからテレビにて見ました。

『命』について考えよう。学ぼう。

命について学ぶ機会は、小学校も含めると沢山あったと思いますが、毎日のニュースで、殺人や殺人未遂、暴行、戦争、いじめなど多くの命が危険にさ

らされている昨今、『自分事』として、考え直すことは大事な教育活動であると思います。



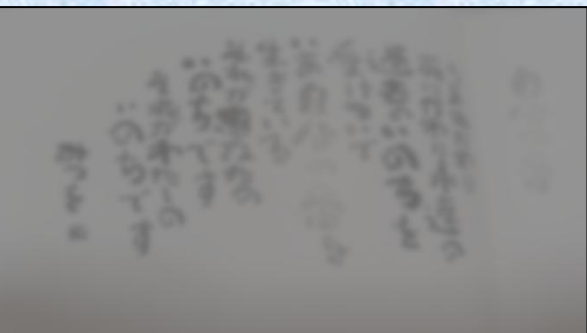
たった一つの命であっても、その親、そして、その親、その親、そしてまたその親……ととどろり続けていくと、多くの人の命を私たちは引継ぎ、受け継いでいるということがわかることに触れました。つまり、命は一人目から二人目、三人目、四人目、五人目……と受け継がれていくバトンのようなものであるということを伝えました。

私たちの命はつながっている。

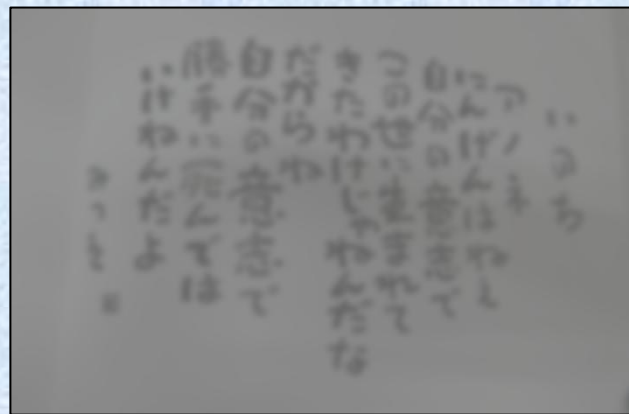
自分の命は、自分だけのものではなく、今日まで自分を守り続けた人がある。命がけて産んだ人がいっぱいいて、今の私がいる

命は バトン

そして、有名な『相田みつを』さんが書いた言葉を紹介し、『命の連続性』を、簡単に言うと『命のつながり』について触れました。要は、私たちの命は、自分だけのものではない！今まで自分を守り、命がけて産み、育てた人がたくさんいて、長い年月をかけて受け継いできたバトンのようなものだということを指摘しました。



※相田みつをさんの本は私たちの生き方に係る内容が多く、感銘を受けます。お勧めの本です。



長い年月を受け継いだ命。だからこそ、大切にしないといけない。また、私たちは、自分の意志で生まれてきたわけではないのだから、自分の意志でその命を好きのようにすることはいけないのです。上記の詩も、『相田みつを』さんの詩ですが、命がいかに大切なものかを強く訴えています。

人 一 叩 命

「働け、働け」と、誰も心臓にお願いしたことがあろうけれど、あなたにずうっとたたき続ける心臓。あなたが寝ているときも、この一叩きは休むことを知りません。

『命』は、人屋根に、『一叩き』と書きます。人叩きの連続が命。生きていくということなのです。

寿宿使運命
命命命命名

『命』という漢字をよく見てみましょう。『人』という字が屋根になり、その下で『一つ』『叩く』という字の組み合わせです。どんなときにも人の心臓は、トントンと叩いています。その一叩きは、休むことを知りません。人（一）叩きの連続が命です。

その命もいつかは、鼓動を止めることになるでしょう。命がなくなるとき、人は亡くなるわけです。その時、後悔をしないような生き方をしたいものです。命の学習は、生き方の学習だと私は考えます。

私は、そういいながらも、日本人の平均寿命の半分以上を越してしまいました。自分の生き方は良かったのか、それとも良くなかったのか、何のために自分は生きてきたのか、そして、残された寿命まで何のために生きていくのか……などをぼーっと考えることが増えました。考えても、考えても答えは出ません。残された寿命がどれだけなのかももちろんわからないのですが、天から私が召されたとき、多くの人が『笑顔』で『幸せだったよ』と思うことができれば、それは、私の人生は、私の命は、『幸せだった』証かもしれません。